



# 井の頭自然文化園

井の頭恩賜公園開園100周年カウントダウン新聞

12号  
2013年9・10月号

2013年(平成25年)9月1日

●編集・発行  
いのきちさん編集委員会  
編集長 川井信良  
東京都三鷹市上連雀1-12-17  
株式会社文伸 気付  
電話 0422-60-2211  
FAX 0422-60-2200  
メール inokichi@bun-shin.co.jp

●協力  
東京都西部公園緑地事務所  
東京都井の頭自然文化園  
井の頭恩賜公園100周年実行委員会  
NPO法人みたか都市観光協会  
武蔵野市観光推進機構

●制作支援  
株式会社文伸 / ふんしん出版

井の頭恩賜公園  
開園100周年まで  
あと3年8ヵ月

井の頭 吉祥寺 鷹

INFORMATION 2013年9月～10月

## 井の頭自然文化園

- 「御殿山産倶楽部——シカを知る」開催中!  
動物としてのシカはもちろんのこと、シカと日本人の関係をさまざまな側面から紹介し、最後はシカと私たちの間で起こっている問題について知り、考える内容です。  
2013年12月28日(土)まで 場所:動物園(本園) 資料館1階
- 水生館特設展示「田んぼで聞こえるカエルの合唱、むかし」開催中  
関東周辺で見られるカエルの展示と解説パネルを設置して、田んぼとその周囲の環境の変化とカエルの身に起きている変化を紹介します。  
2013年9月29日(日)まで  
場所:水生館(分園)水生館 特設展示会場  
展示生物:トウキョウダルマガエル、ニホンアマガエル、シュレーゲルアオガエル、ツチガエル、ニホンアカガエル、モリアオガエル、ウシガエル

★出張動物園  
次のイベントに井の頭自然文化園も参加します。モルモットのふれあいコーナーが出張する予定です。

- 第24回三鷹国際交流フェスティバル  
日時:9月22日(日) 10:00～15:30 場所:井の頭恩賜公園西園
- 第6回むさしの環境フェスティバル  
日時:10月19日(土) 10:30～15:00  
場所:境南ふれあい広場公園(JR 武蔵境駅前・武蔵野プレイス前)

★飼育係のいきものガイド  
飼育係が担当動物についてお話しします。担当する飼育係しか知らない動物の特徴やエピソードを聞くことができるかも?  
実施日:毎週日曜日 場所・時間:実施する場所と時間は毎回異なります。お問い合わせください。  
詳しくはホームページをご覧ください。 <http://www.tokyo-zoo.net/zoo/ino/index.html>

## 井の頭恩賜公園

### ネイチャー☆プログラム

ネイチャー☆プログラムとは…次世代を担う子供たちや公園を訪れる人たちに、わかりやすく楽しく「自然の仕組み」を学び遊んでもらうプログラムです。

- あおぞら実験室(井の頭池付近) 9月1日(日)
- グリーンバード(井の頭池付近) 9月14日(土)、22日(日)
- ツリー☆マジック(第二公園) 9月14日(土)
- ツリークワイミング教室(第二公園) 9月15日(日)、16日(月)
- どんぐり広場(御殿山広場) 9月19日(木)
- ツリートレック(第二公園) 9月23日(月・祝)

詳しくはホームページをご覧ください。 <http://www.i-np.jp/index.html>

- 野外劇フェスタ(どぐんこ)(西園) 9月6日(金)～15日(日)
- TERATOTERA(御殿山広場) 9月8日(日)
- 猫の譲渡会 三鷹市地域猫の会(野外ステージ) 9月15日(日)
- 三鷹国際交流フェスティバル(西園競技場) 9月22日(日)
- 野外劇フェスタ(唐組)(西園) 10月5日(土)～15日(火)
- 三鷹の森フェスティバル(西園競技場) 10月6日(日)
- アニメワンダーランド(野外ステージ) 10月12日(土)、13日(日)
- 井の頭100祭(野外ステージ) 10月19日(土)、20日(日)
- 猫の譲渡会 武蔵野市(野外ステージ) 10月27日(日)

## 井の頭かんさつ会

- 第101回「秋の渡り鳥」 9月23日(月・祝) 9:00～11:00
- 第102回「キノコ」 10月20日(日) 10:00～12:00

事前申し込みが必要です。詳細や申し込み方法はHP <http://www.kansatsukai.net/> に載せます。

## 井の頭100祭 ～Countdown to 2017～

「井の頭100祭(ひゃくさい)」は、自然の宝箱である井の頭公園に日頃の「感謝」の気持ちを捧げ、井の頭公園開園100周年をみんなで祝いしようというカウントダウンイベントです。今年も井の頭アートマーケットのアーティスト有志、成蹊大学学生ボランティア本部など地域の方々の協力を得て開催します。2013年は「ひろく～感謝～」をテーマとし、井の頭公園野外ステージを中心に音楽ライブやダンスなどのパフォーマンスが繰り広げられます。皆様のご来園をお待ちしています。

日時 10月19日(土)、20日(日) 11時～16時30分(雨天中止)



## アートマーケットと アパアーティストな人々



特徴をつかみながらかわいく「ゆる似顔絵」を描く徳山きみあきさん

## 徳山きみあきさん(イラストレーター)

小さな子どもが描いたような、利き手と反対の手で描いたような、ぎこちなさとあどけなさが同居する「ゆる絵」を描く徳山きみあきさん。とぼけた表情の鳥や、たばこをくゆらせてやさぐれるパンダなどを軽いタッチで描きます。「こんなおじさんが描いているなんて驚かれます」と笑う徳山さんも、どこかゆるキャラを思わせる雰囲気です。

デザイナーや似顔絵師などの仕事を経験した徳山さんは、絵本の出版を目標に、6月にフリーランスに転身したばかり。ゆる絵イラストをメインに、店舗やパッケージのデザインを手がけています。

作品はメモ帳やノート、レシートの裏などにペンで描き、パソコンに取り込んで彩色。ノートの罫や紙のざらついた表面まで転写されるので落書き風です。井の頭公園では、得意な似顔絵と組み合わせ合わせた「ゆる似顔絵」をオーダーでき、かわいく描いてもらえると評判です。



ポストカードのゆる絵は表情さまざま。

小田原 澪(おだわら みお)  
編集者・ライター。フィールドは多摩。三鷹市在住。アートマーケットは、主に土日祝日に開催しています。

## 今月の はな子

はな子の夏  
まるで日本が熱帯になってしまったかのような今年の夏の暑さですが、国内最高齢のはな子にとってもかなりつらい季節です。毎年夏には食欲が落ちるため、昨年からリースで業務用の冷房機を寝小屋に設置し、夜間の室温調整を図っています。今年もそうしたのですが、それでもこの暑さではな子も不快なのでしょう。そんな時は大事をとって終日室内に収容のままとし、ゾウ舎外壁に設置したモニターでの観覧とさせていただきます。暑い中、折角はな子に会いに来て下さったお客様には申し訳ないのですが、はな子の健康のためにどうかご理解ご協力をお願いいたします。

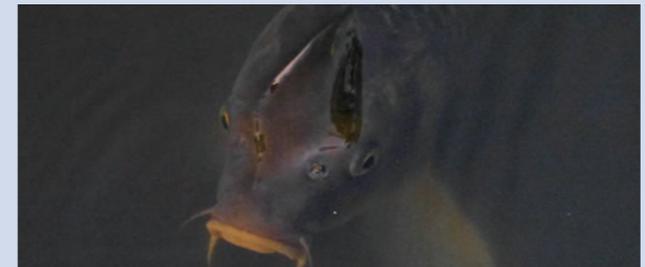
冷房機 → モニターで観覧するお客様



井の頭自然文化園 飼育展示係長 山本藤生

## 井の頭公園の生き物たち

井の頭かんさつ会 田中 利秋 井の頭かんさつ会代表。毎月自然観察会を開催。池の外來魚問題にも取り組む。



## じつはよく知らない魚

コイを知らない日本人はいないでしょう。エサを求めて人のもとに集まる大きなコイは公園の池の人気者です。しかし飼育・放流されているのは国外起源の飼育品種。井の頭池のコイも人が放したのかその子孫です。ただし公園が放流したのはだいぶ昔の話で、湧き水が涸れて水草(沈水植物)が無くなって以降はコイは繁殖をしていません。コイは水草に産卵するからです。繁殖できていないことは、小さなコイをまったく見かけないことから分かります。それなのに今もコイがたくさんいるのは、飼っていたものを勝手に捨てる人がい

「いのけん」講座  
答え合わせ

問題1  
1) 植物プランクトン 井の頭池の透明度が低い原因となっています。

問題2  
3) 2013年6月2日 跡地がどうなるか気になりますね。

写真 7月1日に皇居の二重橋濠で見かけたカイツブリ親子です。親鳥は小魚を与えた直後につついて独り立ちを促し、子供たちは潜水の練習を繰り返しています。

二日かけて外苑濠と東御苑のお濠を見て回ったところ、水草(沈水植物)がないお濠の水が植物プランクトンで緑色に濁っているのに対し、水草が多いお濠はど水が澄み、カイツブリの姿も多いことが分かりました。一方、浮葉植物のヒシや抽水植物のハスなどが茂る牛ヶ淵は、水が濁りアオコが発生していました。水中に葉を茂らせる沈水植物は水中の栄養素を吸収して育ち、植物プランクトンを食べる動物プランクトンの棲み処ともなるので、水を澄ませる効果が高いようです。動物プランクトンを食べて育つ小魚はカイツブリの餌になります。水草は葉材にもなるので、水草が多いお濠はカイツブリの楽園になっているのです。

井の頭池のかいぼりに、在来の沈水植物を復活させる計画が入っています。

二重橋濠のカイツブリ親子

井の頭かんさつ会 田中 利秋 <http://homepage2.nifty.com/tnt-lab/>

るからです。自宅の庭を相続対策のために漬した時、その池にいたコイを井の頭池に放した人が少なくない、と聞いています。かくして井の頭池はコイであふれる池になりました。2006年にコイだけが躍るコイヘルペスが流行し、抵抗力が弱い錦鯉を中心に9百匹以上が死にました。感染したコイを誰かが放したからでしょう。それでも池にはまだ数百匹のコイがいます。捨て鯉は今も続いていて、見たことのない模様のコイが突如現れることがあります。

コイは付着藻類から水草、水生動物、落下動植物、そして人が投げるエサまで何でも食べますが、本来はあまり水が澄んでいない環境で暮らす魚で、2対のヒゲやパイプ状に長く突き出る口は泥の中の底生動物を探り当てて食べるのに適しています。硬い貝も、喉の奥にある咽頭歯で難なく砕きます。専門業者による調査の結果、一般的な池と比べて、井の頭池には底生動物が極端に少ないことが明らかになっています。おそらくそれは、たくさんいるコイのせいです。

飼育鯉は人工の池で人が世話をしながら飼うべきものであって、自然の池に放すべき魚ではありません。かいぼりが目指している、多様な生き物が暮らし、それらの総合力で水が澄む井の頭池を実現するには、コイのことを、そして他の多くの生き物のことをもっと詳しく知る必要があります。



突如現れたコイ

12 都心の楽園

「楽園はよみがえるか」

カイツブリ通信  
きれいな水に泳がせたい!

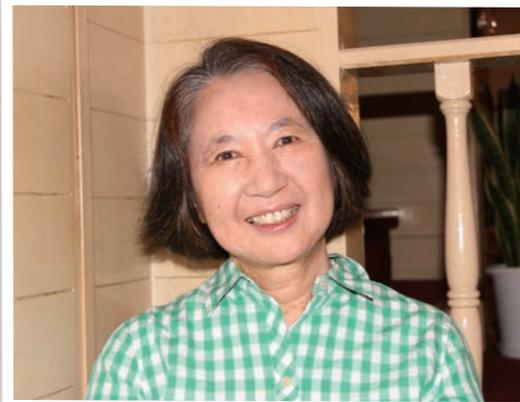
カイツブリは、得意の潜水で小魚やエビを捕まえる、小さな水鳥です。池や川にカッパルで縄張りを作って暮らし、子育てをします。

絵と文 せのうさこ

せのうさこ 1975年 盛岡市で生まれる。小6で三鷹へ転校。アニメ動画から絵本に進む。三鷹市在住。



写真 古賀 親宗 (こが もとりの)  
1983年 福岡県柳川市生まれ。三鷹市在住のフォトグラファー。



(注) 小鳥の森…井の頭恩賜公園西側の東南にある、バードサンクチュアリ(鳥の保護区)。

(聞き手・写真 川井信良)

アケビコノハ 枯れ葉をつくりです  
撮影：高久晴子

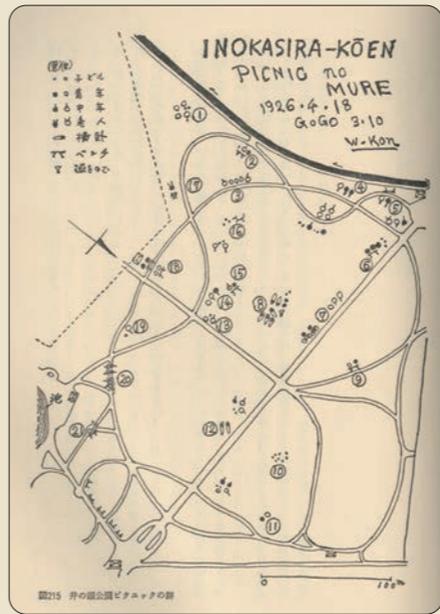


## 井の頭恩賜公園の歩み 第12話 公園の観察記録から 大正時代の世相を 読み取る！

関東大震災後約5年間、公園の近くに住んだ今和次郎(こんわじろう)は、考古学や民俗学に対して「考現学」を提唱した研究者でした。服飾や風俗などの現象を観察し、独特なタッチのイラストと軽妙な文章でまとめた記録は、時代を今なお新鮮に伝えてくれます。井の頭の2つの記録を見てみましょう。



▲井の頭公園での記録2つは「考現学入門」(ちくま文庫)に収録されています。



「井の頭公園春のピクニック」  
(「今和次郎集1」ドメス出版より)

「横臥せる青年男子二人」「みんなで南京豆を食べている」「女子洋装、立ちながらシトロンを飲んでる」「パイプルを読んでる」etc...大正15(1926)年4月18日(日)、午後3時10分前後、晴天。御殿山の雑木林区域を2人で手分けし、5分ほど駆けまわり、座っているか静かにさまよっている人だけ約40組を調査記録したもので、場所や人数は地図にプロットされています。

「食べているものも、ゆで卵、ミカン、南京豆、アンパンなどは在来のものであるが、ドーナツはこのごろのものだといえそうだ」とも。4月18日といえは、今なら市販の惣菜類やスイーツが賑やかに並ぶであろうお花見の季節。当時のピクニックの相伴は今より素朴だったことがうかがえます。

この「井の頭公園春のピクニック」のほかにもう一つ、今和次郎は「井の頭公園自殺場所分布図」という記録を残しています。「自殺者があつたら知らせてくれ」と近所の人たちに頼んでおき、できれば実見し、できなければ人からヒアリングした記録は8件。数が少ないゆえに「自殺人の場所の選び方、男女によるその特徴、野外自殺の方法、などの考察材料とまでならないのが残念」ではあるものの、「春のピクニック」と対照してみても、いたくならば、同一の舞台で、同一の木のしたで、どんなに人ひとの享樂とそして死とがとり行われているかがおわかりになるだろう」と今和次郎は考察を結んでいます。

1924年夏から1927年2月にかけての約2年半で8件もの自殺が公園内であったとは驚きですが、統計を調べてみると、第一次世界大戦後の20年代は特に青年の自殺が多かったようです。そんな当時の世相が、今和次郎の公園観察に表れているのです。

安田知代

安田知代(すだともよ)  
編集者・ライター。井の頭公園\*まるごとガイドブック「懐かしの吉祥寺昭和29・40年」編者。

## 私と井の頭公園 その12

### 暮らしているそばに自然が残されている幸せ

高久晴子(武蔵野市在住)

井の頭公園検定公式問題集「いのけん」に、貴重な生き物たちの写真を多数提供している高久さん。自宅の庭にきた生き物たちの面白さから、井の頭公園にフィールドワークが広がった。

自宅の庭に、鳥や昆虫が来ましてね。よく見ると、かわいらしいし、とても多様で、これは面白い、ということに気づいたんです。その延長上で井の頭公園にバードウォッチングに行ったら、井の頭かんさつ会や同好の方々がいろいろ教えてくれて、興味と人のつながりがどんどん広がっていったんです。

その井の頭公園は、鳥たちにとって重要な場所でした。玉川上水のグリーンベルトを頼るようにして、多くの渡り鳥が立ち寄るんです。絶滅危惧種のミンナイも来ます。特に『小鳥の森』(注)は立ち入り禁止で人の手をほとんど入れていませんから、自然状態が良く、鳥たちが集まっています。そして、私たち人間にとっても重要な場所です。遠くに出かけなくても、身近なところで多様な生物が息づいている、暮らしているそばで自然とふれあえ、よく観察すると、その自然の営みを通して多くのことを学べるのが本当に幸せだと思います。

私も、鳥や昆虫が好きで井の頭公園に通っているんですけど、その縁で知り合った方々とつながっていくのがうれしいですね。公園に行きたくなるのは、様々な生き物たちに会えることと、やはり様々な方々に会えることですね。井の頭公園は、生き物たちにとっても、人間にとっても大切な、守らなくてはならない自然環境だと思います。

### よみがえれ！井の頭池 12

**実地体験をもとに、準備が進んでいます**

平成25年度の冬に予定されている「かいぼり」にあたっては、市民参加のプログラムも計画されています。とはいえ、実際の作業を体験した担当者は西部公園緑地事務所にいないため、去る6月、訓練を兼ねて練馬区の光が丘公園のバードサンクチュアリの池での外来生物の駆除を体験しました。この池では、NPO法人生態工房が中心となって12年前に「かいぼり」を行い、今も外来生物の駆除を継続的に実施しています。井の頭公園にとっては運営方法や具体的なノウハウに至るまで学ぶことが多いのです。「水の中をバランスを崩さずに歩くのは意外と難しく、実際には真冬に行うことを考えても、実施に向けて細かい準備が必要だとあらためて実感しました」と担当の大道工事課長。井の頭池の「かいぼり」を担うボランティアの養成に向け、実地で作業をしたり、ボランティアの役割を学んだりする事前講座の実施も検討中だそうです。

## 『いのきちさん』について

都立井の頭恩賜公園が2017年5月に開園100周年を迎えます。『いのきちさん』は、もうすぐ100歳を迎える井の頭公園に、感謝の気持ちを込めて、地域の市民と企業と団体の協力により発刊された100周年カウントダウン新聞です。名称は井の頭公園の「いの」、隣接する吉祥寺の「きち」、井の頭池が市内となる三鷹市の「さん」を並べたものです。(奇数月1日の隔月発行です)

「いのきちさん」のホームページができました！更新中！  
<http://www.inokichisan.com/>

「いのきちさん」の感想やお問合せはメールでも受付けています。  
✉ [inokichi@bun-shin.co.jp](mailto:inokichi@bun-shin.co.jp)

「いのきちさん」を置いていただける所を募集しています。

スマートフォンのQRコード

R100 VEGETABLE OIL LINK

## 『いのけん』(井の頭公園検定)講座

第2回 井の頭公園検定(いのけん)が2013年12月15日(日)に決定!! (同封申込書をご参照)

問題1 暑い夏季に多い、井の頭池の水面を覆うアオコは、一体なんでしょう。  
1) 植物プランクトン 2) 腐った藻が浮き上がったもの 3) 動物プランクトン 4) ヘドロの一種

問題2 1962年にオープンした、井の頭自然文化園にある熱帯鳥温室は、老朽化などで閉館しましたが、それはいつでしょう。  
1) 2013年3月31日 2) 2013年5月5日 3) 2013年6月2日 4) 2013年7月3日

答えは裏の面にあります。

いのけん応援バッジ 発売中!!  
みんなでサポーターになろう!  
1,000円(税込)